

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度 昭和46年度～			
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	01 生活しやすいまちづくり
	小項目	施策	11 道路
事務事業名			02 県道改良事業
根拠法令・規程等			問 担当課(室) 都市整備課
問 職・氏名			管理係長・岸本豊弘
問 電話			0869-64-1833

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	県道利用者
目的(何のために)	県道の効率的・効果的な整備により、道路交通の円滑化や圏内の一体的発展及び安全で快適な通行の確保を図る。
行政活動(どのような方法で)	市内の県道で整備が必要な箇所を選定し、県に早期整備の予算措置の要望を行う。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	県に要望し、県道事業整備を実現させる。

事業の実績					
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	県工事要望件数	件	65	61	28
	県工事実施件数	件	23	21	5
実績	直接事業費	千円	9,109	18,021	20,130
	必要人員	人	0.19人	0.11人	0.09人
	必要人件費	千円	1,697	1,091	710
	事業費	千円	10,806	19,112	20,840
	国・県支出金	千円			
受 益 者 負 担 金	千円				
総 入 金	千円				
市 債	千円				
そ の 他 ()	千円				
一 般 財 源	千円	10,806	19,112	20,840	
受 益 者 負 担 比 率	%				

結果指標名					
結果指標①	結果指標量	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	対前年比	%	65	61	28
	活動コスト	円	1,527,300	981,900	628,200
	単位当たりコスト	円	23,497	16,097	22,436
結果指標②	結果指標量	単位	23	21	5
	対前年比	%	91.3%	23.8%	
	活動コスト	円	9,279,000	18,131,100	20,199,800
	単位当たりコスト	円	403,435	863,386	4,039,960

事業の成果						
要望に対する県事業実施の50%を目標	成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
	目標値(A)		50	50	50	50%
	実績値(B)		35	34	17	到達目標年度
	達成率(B/A)		0.7	0.68	0.34	毎年
成果指標設定の考え方・式や説明						
実績値＝実施件数／要望件数						

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	判定理由・課題認識 市内県道で早期に整備が必要な箇所については、今後も県・国に要望を行い事業を進めていくことは妥当である。
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い 説明	
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> 判定理由・課題認識 事業費は工事件数及び工事費により変動する。道路の機能を維持向上するため引き続き整備が必要であるが、コスト・効率化のため市で優先順位を決め県に要望を行っている。しかし、更に効率性・市民への安全性を向上するためには整備箇所の一層の選定が必要である。
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	有効性評価<A~E> 判定理由・課題認識 最も有効性のある工事の推進を県に働きかけていき、毎年度目標値に近づけていく。

平成21年度の状況		県事業実施率		結果指標量②		成果指標量		1	
目標値	結果指標量①	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況	状況
		拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了	
			○						
説明		毎年要望を行っており、県の財政状況からも実施に結びつかないことが多いが、引続き要望していく。							

総合評価		評価区分<A~E>	
今後も整備箇所の要望は増加していくと思われるが、事業内容を見直すなどの改善を考慮しながら状況に応じた事業継続が必要である。		妥当性 A C E 有効性 B 効率性	
		C	

平成22年度以降の方向性・内容							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					
説明 引続き要望をしていく必要がある。							
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果			
効率性		整備箇所の選定	次期要望時	事業費の削減及び人件費の有効利用			
有効性		地域住民主体での選定	次期要望時	人件費削減			